



あ い さ つ

中・四国小学校体育連盟・高知県小学校体育連盟
会長 山本 儀 浩

第59回中・四国小学校体育研究大会高知大会が、雲一つない青空の下、中・四国小学校体育連盟役員及び高知県内の先生方、総勢283名をお迎えし、盛大に開催できましたことを心から感謝申し上げます。

本研究大会に向けては、令和元年度の準備委員会、令和2年4月からの実行委員会を通して、約3か年の年月をかけて準備を進めてまいりました。その間、人類が今まで経験したことのない感染症の拡大、全国一斉の学校休業措置、感染症拡大防止対策に伴う学校教育活動の制限。特に、体育科の活動は感染リスクが高い教科として位置付けられ、接触を伴う活動が大幅に制限されました。

このような状況下において、2つの点が大きな課題として大会運営に押しかかってきました。その一つは研究大会の開催、そして、もう一つは授業実践の在り方です。

研究大会の開催については、感染状況を予測しながらいくつものシミュレーションを立て、複線化した計画を基に取組を進めてきました。開催県としては、できるだけ公開授業を中心とした大会運営を基本としておりましたが、決定のタイムリミットが大きな課題となりました。そのようなときに前に進む勇気をいただいたのが、中・四国体育連盟の各県会長先生方のお言葉です。高知県の思いを受けていただき、高知県の計画を快くご承諾いただきました。また、本大会を体育主任会としての悉皆研修として位置づけ、最後まで開催に力をお貸しいただいた高知県教育委員会、高知市教育委員会には深く感謝申し上げます。

二つ目の課題である授業実践の在り方については、新型コロナウイルス感染症対策のため、体育授業の活動が大きく制限される形となり、教科特性でもある「かかわる」ことへの取組が非常に難しい状況がありました。各校においては、ソーシャルディスタンスを確保しながら、体育科の目標を達成できるよう様々な工夫を行ってまいりました。時に、児童の安全・安心の確保に悩んだときに相談できたのは、共に研究を進めてきた仲間でもありました。高知県にとっては、9年に一度の研究大会は、組織力をさらに高めていく機会であり、今回の感染症対策を行っての体育実践は、これまで以上にその結束力を高めるものとなりました。

令和3年10月29日の大会当日は、それまでの感染状況が嘘のように平穏化された中での開催となりました。中には、「これだったら通常通りでも開催できたね。」と笑いながら言っていただけの先生方もおり、このような会話があることが、微笑ましく感じることもできた瞬間でもありました。

会場校でもある十津小学校は、これまで4年間の研究を積み重ねてきた成果が十二分に発揮された公開授業でした。研究大会の主題でもある「子どもの心に火をつける体育授業」を具現化した子どもたちの姿に、改めて体育という教科の素晴らしさを感じることができました。研究大会に向けて取組を進められてきました島崎雅彦校長先生をはじめ、十津小学校の教職員の皆さまに心から敬意を表したいと思います。

早いもので大会開催から1か月以上が過ぎ去り、あの多忙を極めていた日々が嘘のように時は流れています。感染者が激減する状況の中で、新たな変異株の情報がマスコミから流れてきています。先が読めない状況であることは当面続くことでしょう。このような状況下ではありますが、来年度の山口県の先生方にバトンをお渡しすることができた達成感でいっぱいです。また、第60回中・四国小学校体育研究大会山口大会が成功裏に開催できますことを心より祈っております。

最後になりますが、研究大会開催にあたり、温かいご指導やご支援を賜りましたスポーツ庁、中・四国小学校体育連盟最高顧問成田十次郎先生をはじめ、指導助言者の皆様、高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会、会場校の高知市立十津小学校の教職員の皆様方に、改めまして厚くお礼を申し上げます。

第 59 回中・四国小学校体育研究大会（高知大会）

高知大会におけるアンケートの記入に御協力いただきまして、ありがとうございました。
中・四国小学校体育連盟では、皆様からの御意見、御感想を生かし、実際の教育現場に役立つ研究大会を目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大会主題について

「子どもの心に火をつける」という文言が分かりやすく、授業者にとって主題に対する手立てや研究の視点が明確であった。子どもたちの実態に合った主題であり、授業でも心に火のつく場面が見られた。

大会運営について

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点を大切にして、移動を少なくして各分科会場で基調提案を聞いたり、オンラインで講演を行ったりするなど、今後の開催指針としても参考になる大会であった。

公開授業及び授業協議について

- 主体的・対話的に学ぶ姿、運動に対する高い意欲が見られ、これまで十津小学校の研究が積み上がってきたものが伝わる授業だった。
- 子どもたちがイメージを膨らませて表現できるような掲示や声かけ、場の設定ができしており、話し合いを含めても運動量も十分に確保されていて、とてもよかった。
- 場の設定や BGM のことなど、参考になるものや、もっと教えていただきたい。
- 苦手意識のある子に手立てをむけ、全員の心に火をつける取組が見られたなど、大会主題とのつながりが見られる授業であった。
- 制限下で行われた授業協議においても、活発な意見や感想が交わされており授業者・関係者・参観者三方良しの公開授業及び授業協議となっていた。
- アンケートは、参加者の反応を見るためにも、領域や協議会ごとにまとめて整理できるとよいのではないかと

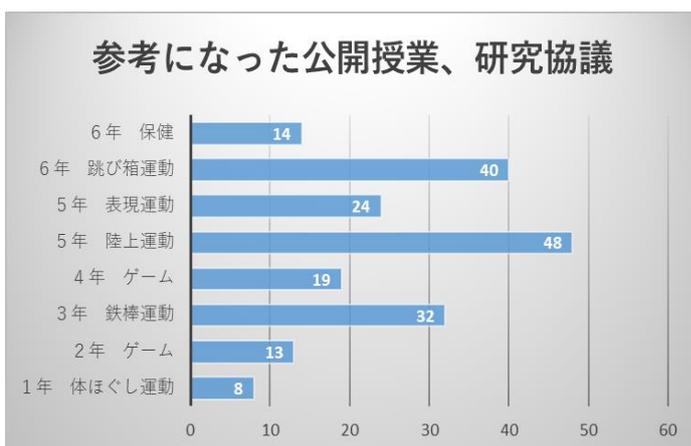
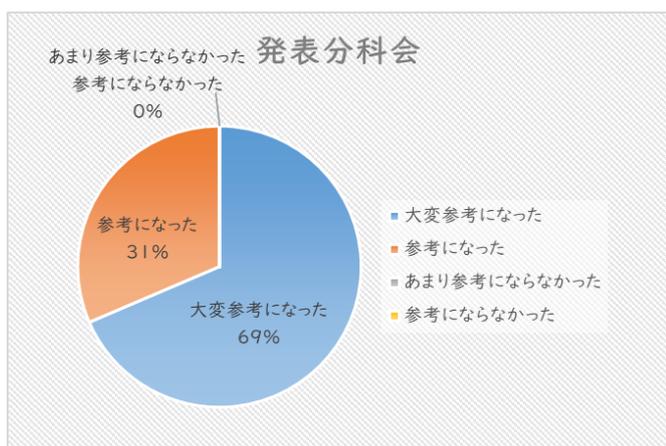
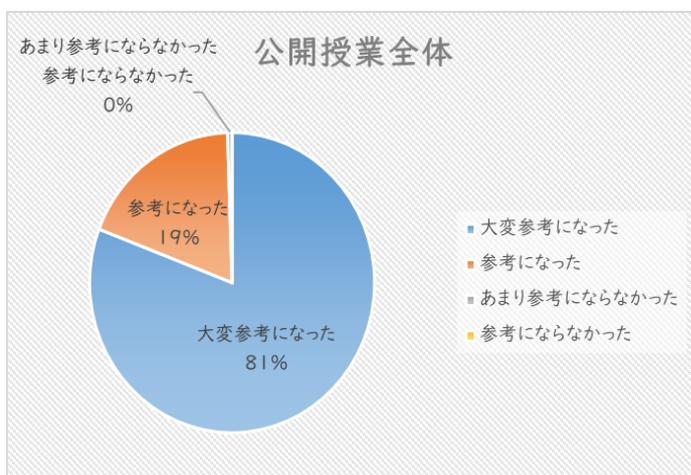
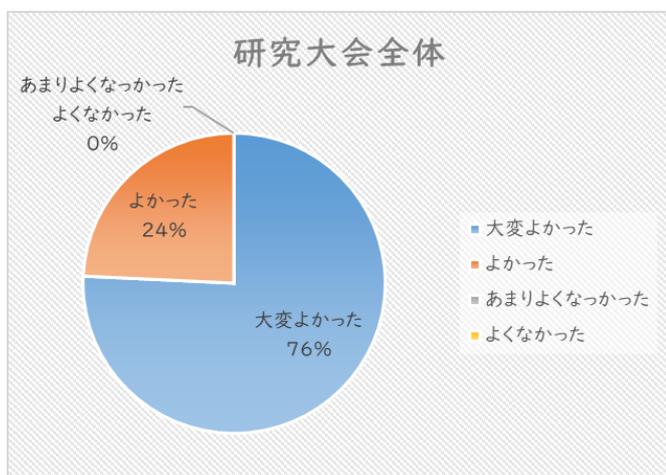
分科会について

- 技能指導にこだわりすぎず、資質・能力をバランスよく育てようという提案が興味深かった。
- 学年の運動遊びとして跳び箱運動をどのように進めるのか参考になった。
- 同じ領域でも、各県によって取組や迫り方が違うのでそれぞれの良さや工夫が伝わり、参考になった。
- 各県の実践を比べて聞くことで「運動の本質的な特性」「資質・能力をバランスよく育てる」などの共通点も明らかになり、学びの場となった。
- 中・四国各県で取り組んでいることと高知県が目指す学びの形を比較して議論することで、よりよい学びが焦点化された。

「わたしたちの体育」について(デジタル化についての要望等)

- 器械運動、鉄棒運動、水泳等は手本動画がほしい。
- 動きの手本となる動画は、教師の指導改善のため、子どもが自分で学ぶための両面からも必要である。
- 95%の先生が「わたしたちの体育」を使用されている。公開授業等で、もっと準教科書の活用場面を見たい。
- QRコードのように簡単に必要な動画がほしい。
- 「わたしたちの体育」に沿った形での参考動画がほしい。
- 映像資料だけでなく、運動の構造図やワークシートがほしい。

アンケート集計について



参加人数について

高知	山口	鳥取	愛媛	島根	香川	岡山	徳島	広島	合計
240	12	3	6	2	4	5	6	5	283

※高知県内および中・四国小学校体育連盟役員限定での集計